

- 令和2年10月13日、庄内川流域の関係自治体が一堂に会し、第3回庄内川流域治水協議会を開催。
- リーディング地区の名古屋市および多治見市より、本プロジェクトに対する対策を共有。
- あらゆる関係者から、流域治水対策に対し、全面的に協力・支援していくことを表明。
- 年度内の流域治水プロジェクト策定を目指し、今後の全体とりまとめイメージと進め方について確認。

日時：令和2年10月13日（火）14:00～15:00
 場所：TKPガーデンシティPREMIUM名駅西口 2階会議室
 出席者：多治見市長、清須市長、他流域市町関係者（17市4町）
 岐阜県、愛知県、国土交通省多治見砂防国道事務所
 国土交通省庄内川河川事務所、
 オブザーバー（東海農政局、中部地方整備局 建政部・河川部、
 名古屋地方気象台、地方共同法人日本下水道事業団）

自治体代表挨拶

- ・ 県境という考えを捨て、それぞれの市町が河川を大切にしてい
くことが必要不可欠。流域住民の安全な暮らしのために、本協
議会を素晴らしいものにしていきたい。（多治見市）
- ・ 圏域市町の協議会出席は心強い。近年の気候変動を踏まえると、
東海豪雨級の災害はまた起こる可能性が十分にあり、流域市町
が一丸となって備えていくことが大切。（清須市）

リーディング地区による対策内容の共有



名古屋市長代理
 （緑政土木局 西尾河川部長）
 『新しい時代にふさわしい豊かな未来を創る！世界に冠たる「NAGOYA」へ向けて、あらゆる関係者と協働し、県道枇杷島橋改築や、防災まちづくりの検討等の流域における対策、地下空間タイムラインの活用等のソフト対策を行っていくことを提示。（名古屋市）』



古川雅典 多治見市長
 『ふるかわ まさのり』
 中流域の役割として、下流に位置する市町への流出負担軽減のために『オール多治見』による雨水流出抑制と市民の防災意識向上の実践や、安全なまちづくりに向けた更なる検討等を行っていくことを提示。（多治見市）』

協議会で出された意見等

災害に強いまちづくりについては、1市では限界があるため、流域の市町が一体となって浸水被害の軽減、防止に取り組むことが大切。（清須市）



ながた すみお
永田純夫 清須市長

流域治水にかかる総合的・横断的な予算面、政策面での積極的な支援が必要。（春日井市）

農業用のため池は一定程度の貯留施設としての効果が考えられるが、あらゆる面での課題を解決していくことが必要。（瀬戸市）

支援体制の充実

- ・ オブザーバーより、安全なまちづくりや農業施設の活用等における事例や支援制度について紹介。
- ・ 今後の流域治水に対し、相談窓口となり、全面的にバックアップしていく旨を表明。



協議会の様子

※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、座席間にはアクリル板を設置。マスク着用、消毒、検温等を徹底。